

旭川市

井上靖記念館報

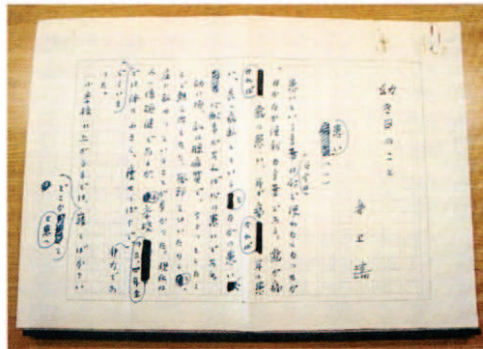
第5号



『幼き日のこと』 自筆原稿寄贈

「私は、明治四十年（一九〇七）に北海道の旭川で生れた。父は当時第七師団軍医部勤務の二等軍医であった。父は二十六歳で、母は二十二歳であった」（『幼き日のこと』の原稿より）

この書き出しで始まる井上靖の長編エッセイと言われる『幼き日のこと』は、出生地・旭川が登場する代表的な作品の一つです。



一昨年二月に、当館の職員が開館十周年記念の企画に当たり上京した際、井上家から『幼き日のこと』の自筆原稿や創作メモ、新聞連載に寄せた作者の言葉など、三三三枚にも及ぶ貴重な自筆原稿を寄贈いただき、開館十周年の記念すべき慶事となりました。そして、昨年七月から九月の間、『幼き日のこと』の原稿を中心に「井上靖 旭川への思いをつづつて」と題して、企画展を開催しました。期間中、当館の浦城いくよ相談役が来館し、新しく見つけた「患い」「旅情」の自筆原稿四十枚が井上家から寄贈されました。

「患い」は二十枚の自筆原稿で、幼いころの靖は腺病質でちよつとしたことから熱を出したり、風邪をひいたりして、床に臥せていることが多かった様子が書かれています。また、「旅情」は十六枚の自筆原稿で、当時父の任地であった豊橋に、祖母と最初に行った旅の思い出を綴つたものです。

この二篇の自筆原稿の寄贈は、テレビや新聞でいち早く紹介され、企画展の中で急ぎよ特別に展示しました。多くの来館者が、この貴重な原稿に興味深く見入っていました。浦城相談役は、「旭川は父が誇りに思い、すきな土地。旭川が登場する作品なので、この記念館に納めたかった」とコメントしていました。

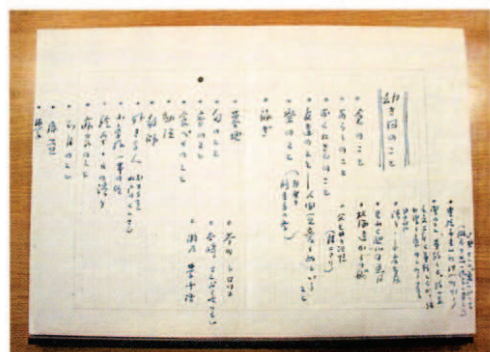
当館では、『幼き日のこと』は旭川について本格的に書かれた数少ない作品だけに、寄贈は大変ありがたく、大切に保存して多くのの人々に見てもらう機会をの提供に努めたいと思つていきます。次に、一昨年に寄贈された原稿



について、少し詳しく紹介します。

『幼き日のこと』の自筆原稿は、第一章の「旭川」から三三三枚に及んでいます。

他に創作資料として「暦」という題の中に「行事・食べもの」に関する原稿用紙五枚、封筒に「思慕」と書かれ「まちとおかのお婆さんのメモ・年中行事・子供の遊びに関するもの・家族関係・言葉（馬とばし・しろばんば）」など、靖ならではの詳細な資料が含まれています。



さらに、『幼き日のこと』について読者からの手紙もあります。手紙には、靖の父隼雄とは時代に少し隔たりはあるけれど、「私の父も陸軍軍医でした。台北衛戍病院（三年）↓豊橋（六年）↓弘前↓東京と似たような勤務地へ行って懐かしく感じます」と書いてありました。

今回寄贈された原稿も含めて、井上靖を旭川市民に広く理解してもらい、二年後の生誕百周年を迎えたいと思つていきます。



海外に井上靖全集を贈る

浦城 いくよ (井上靖・長女)

父井上靖が亡くなって十四年になりました。十年余りをかけて新潮社から井上靖全集二十八巻と別巻一卷が刊行されました。完成を機に、この全集を日本文学や日本語研究をしている世界二十七ヶ国の五十五機関に国際交流基金を通じて寄贈しました。海外における日本の現代文学そして、井上靖の研究に少しでも役に立つて欲しいという願いを込めてのことです。

父は生前、いろんな分野の作品を書いています。日本が国際化していくためには、お互い理解しあわなければなりません。日本をいろんな国の人々に理解してもらうためには、「人それぞれやる分野があるが、小説家としては日本の文学や自分の書いた作品を外国の人々に読んでいただき、その作品を通して日本人の物の考え方、感じ方を分かってもらうことが自分に出来る一番の国際貢献だ」と信じ、実際に父は、そのための努力をして来たと思います。

父のいない現在、私が父にやってあげられることは、いろんな国の日本語や日本文学を研究している機関に本を置くことです。こうした活動をする中で、井上靖全集が欲しいという話がベトナム大使からあり、私は本年一月末にベトナムへ行ってきました。ベトナムは近年に日本

との関係が深まり、日本に関心を持ち、理解しようとする若者がとて増えていると聞いています。大変な日本ブームでもあります。大学生でも一般の人でも皆んなに読んでもらえる所ということで、全集を国家図書館に置くことが出来ました。贈呈のセレモニーまでやっていただき、日本からの寄贈本としてはしっかりと文学書は初めてということで大変喜ばれました。

何年前か、ウズベキスタン共和国へ行ったことがあります。首都タシケントにある東洋学大学を訪問した折、門を入るなり、「コンニチワ」という挨拶がどこからか聞こえてきたのが印象に残っています。日本語学科の図書館を見せていただきましたが、日本の本は多くなく、近年発刊の本は殆んどありませんでした。後にこの大学へも井上靖全集を差し上げましたが、贈呈式はもろろんのこと、テレビのニュースにまでなったと聞いています。

アジアの国々では若者たちが、日本に憧れ日本の勉強を一生懸命している様子をテレビでも報じていましたし、実際に行つて私も見ています。モンゴルでもそうでした。私は二十一世紀はアジアの時代だと思っています。アジアの日本に対する思い

はすごいものがあります。発展途上の国々に、日本の文学書をしつかりとした機関に置いてもらうことは大切なことだと思います。私の場合は、父井上靖の本を置くことに価値があることだと思っています。今すぐ本を読んで貰うことは無理なことでしょう。翻訳がされ、読者に作品を好きになつてもらい、その中から将来、井上靖研究家が誕生することが私の夢であり、今はそのための種まきをしています。

記念館点描

昨年、旭川生れの作家・井上靖を多くの市民に知ってもらう資料として『井上靖と旭川』という本が、市内の小中学校をはじめ高校や公民館等の多くの施設に寄贈されました。

当館では、学校等に対してこの資料本『井上靖と旭川』の積極的な活



用をお願いするとともに、自主事業の文学講座等の中で紹介し、市民へのPRに努めています。

また、近ごろは小学校や中学校の総合学習の中で、地域にある文化施設めぐりが盛んに行われ、その一環として井上靖記念館への来館者も増えつつあります。

小学生は、開館の目的や作家・井上靖の人物像、どんな暮らしをしていたか、井上靖通りを作つた理由、どんな小説を書いているかなどについて学習し、教科書に載つた作品や童話なども調べています。市内は勿論、近隣の小学校からも来館し、作品の多さに驚いています。

中学生は、総合学習や進路(作家志望)の学習において、文章をうまく書くにはどうしたらよいか、井上靖記念館がどうして旭川にあるのかなど、一歩踏み込んだ見学学習が行われています。

高校生は、旭川における著名な作家、井上靖記念館の存在意義、地域における記念館の役割、作家・井上靖の業績、世界における井上靖など、より専門的な調査のための来館が多いようです。地域の人々に、大いに井上靖記念館を活用してもらえるよう事業の企画・運営の充実に努めたいと考えています。

年度別入館者数

年度	人数
平成5年	12,703
平成6年	20,385
平成7年	16,599
平成8年	14,893
平成9年	14,639
平成10年	16,832
平成11年	15,848
平成12年	13,536
平成13年	11,450
平成14年	12,475
平成15年	13,496
平成16年	10,077
総入館者	172,933

企画展

【井上靖／自筆原稿展】

四月一日(金)～六月三十日(木)

パソコンの普及により、手書きの文章が少なくなってきました。当記念館では、井上靖の貴重な自筆原稿を展示し、作品の執筆に当たり作者の意図したことやねらいなどを、多くの人々に理解してもらうため企画しました。

原稿はいろいろなジャンルの中から、



『鐘の音』
『新しい年の初めに』
などの詩、
『雪の面』
『石濤』等の小説、ロームオリンピックの取材記事、文部省の『初等教育資料』に教育随想として発表した『三つの教訓』、昭和四十八(一九七三)年「読売新聞」に仏教讃歌『親鸞』をエッセイとして発表した原稿を一部レプリカを含めて展示し、靖自身が加筆・校正した貴重な原稿十二点を関連資料と共に展示しました。

【井上靖／旭川への思いをつづって】

七月一日(金)～九月三十日(金)

井上靖は、「現在の私があるのは、母が旭川で私を生んでくれたおかげです」と生前語り、出生地・旭川への思いを強く語っていました。

「私は明治四十(一九〇七)年に北海道の旭川で生れた。父は当時第七師団軍医部勤務の二等軍医であった。……」で始まる自伝的長編エッセイ『幼き日のこと』の自筆原稿・作者の言葉・創作メモをはじめ、新聞連載の切り抜きや昨年寄贈された『井上靖と旭川』から旭川が登場する作品を展示しました。

そして、企画展開催中に、井上家のご厚意により『幼き日のこと』の自筆原稿「患い」「旅情」を寄贈いただき特別展示しました。

また、靖が最後に旭川を訪れた時、文学碑の除幕式のスナップ写真や当記念館の開館式、井上靖通りの開通式に出席された井上家の

人たちの写真等も展示しました。来館した人たちは、開館当時は懐かしみながら資料に見入っていました。



【おろしや国酔夢譚特集展】

〜井上靖ロシアに行く〜

十月二日(土)

〜十二月二十六日(日)

井上靖は、歴史に舞台を借りて自由に物語を構成した歴史小説、時代小説と呼ばれる小説を多く書いています。

企画展では、漂民・大黒屋光太夫の運

おろしや国酔夢譚【解説】

井上靖は、母に書かせる形で自由に物語を構成した歴史小説、時代小説と呼ばれる小説を多く書いています。中でも、学生時代から始め、特に肉親に刺戟を及ぼしていた漂民は、「天竺の虎」「西遊記」など歴史に根ざった作品を数多く書いています。

命を描いた井上靖の代表的な作品の一つである『おろしや国酔夢譚』の執筆に至るまでの資料を展示しました。

特に、ロシア各地を調査・取材した自筆原稿

は数多く、井上靖の創作に対する意気込みが感じられます。「イルクーツク」「ラクスマン」「ヤクーツク」等の取材原稿は二百枚にも及んでいます。

『北嵯聞略』をはじめ、「漂流民の言語」「カムチャツカ探検記」などの参考書籍、

『おろしや国酔夢譚』のゲラ刷りと校正部分を展示しました。また、加藤九祚氏等の大黒屋光太夫に関する多くの資料を公開し、執筆に当たって事前の取組の周到さを知ることができました。

【井上靖の新聞連載小説特集展Ⅱ】

一月五日(水)～三月二十七日(日)

この企画展は、昨年に引き続いて井上靖の新聞連載小説を中心に特集を企画しました。

井上靖は、昭和二十五年芥川賞受賞作品『闘牛』を執筆してから、作家として本格的に活動を始め、新人としては異例と言われるほど、新聞や週刊誌に二十七日もの連載小説を発表しています。

今回は、それらの中から靖の出世作とも言われる『水壁』をはじめ、自伝的小説である『夏草冬濤』『北の海』、そして、昭和四十年代ころから現代批判を打ち出した『夜の声』『樺の木』『四角な船』の三作品を、新聞連載作品の切り抜きや関連記事等を含めて展示しました。

また、新聞記事から『手術で得た天命への理解』や死去した翌日の追悼記事、業績を讃えた記事等を展示しました。

さらに、井上靖記念館の開館の前日記事、戦時中の創作ノートや旭川ノートなどを取り上げた記事も展示しました。

自主事業の概要報告

◆文学講演会

井上靖の『おろしや国酔夢譚』を読み！

〜井上靖の危機意識〜

とき 平成十六年六月十二日(土)

ところ 井上靖記念館ラウンジ

講師 工藤 正廣氏

(北海道大学教授)

【講演内容】

ロシア文学に造詣の深い工藤正廣氏から『おろしや国酔夢譚』の主人公・大黒屋光太夫の人物像やロシアにおける彼等の生活等について講演が行われました。



『おろしや国酔夢譚』は、桂川甫周の『北嵯聞略』をもとに加藤九祚氏等の資料を参考に書かれた作品です。講演では光太夫の人物像や漂流経路、ロシアにおける生活などについて説明があり、井上靖の詩「ハバロスク」の朗読もありました。写真や地図を用いての講演に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、教授はロシア側が大黒屋光太夫を丁重にもてなし、帰国の際、「山のようなお土産を持たせた」というエピソードを紹介、その上「作品を読んで今日の日本の外交政策上の参考になる」と述べるなど作品を再評価しました。



さらに、最近、大黒屋光太夫についての著書が出版され、新しい人物像の紹介をはじめ「帰国後に光太夫は幽閉されたところがあるが、実際はある程度自由が許され、ロシアの政治や文化を紹介して歩いた」と新たな見解を披露して、参加者の注目を集めていました。

◆文学散歩

とき 平成十六年七月十日(土)
見学先 旭川市内の文学碑や歌碑
講師 東 延江氏
(北海道文学館評議員)

北海道各地には、多くの文学碑や歌碑があります。ここ数年の「文学散歩」は、旭川を離れて作家や歌人の足跡を訪ねていました。

今回は、旭川にある多くの文学碑の再評価を目的として実施しました。

最初に井上靖通りに行き、靖の『幼き日のこと』やふみ夫人の「靖と旭川」の石碑を見て、参加者の多くは、井上靖夫妻の思い出に浸ってきました。

次に、徳富蘆花の著書『寄生木』の主人公を想い歌った碑を訪れました。余り知られていないこの歌碑は旭川を一望できる高台にあり、その景色もまた参加者の目を引きました。その後の行程



の途中、今ではあまり見かけることのない実際の寄生木を発見して、旭川の新名所を再発見することができました。

また、今は訪れる人も少なく、木々に覆われた神居古潭にある九条武子や小林孝虎の歌碑、街の中心部にある小熊秀雄、今野大力、井上靖の文学碑等を巡り、最後に、宮沢賢治の碑を見学しました。

講師の東氏からエピソードを交えた碑の説明を聞き、作家の思いを知ることができ、旭川の文学の再発見・再評価ができた有意義な「文学散歩」でした。

◆紙芝居／『しろばんば』

とき 平成十六年七月二十七日(火)

七月 三十日(金)

八月 三日(火)

八月 六日(金)

ところ 井上靖記念館ラウンジ

春光住民児童センター

講師 上森 仲子氏

(旭川おはなしの会代表)

子供たちに井上靖について少しでも理解を深めてもらうため、今年も紙芝居『しろばんば』を実施しました。

井上靖が子供のころ、おかのお婆さんと土蔵の中で生活した様子などを描いた紙芝居を見ながら、子供たちは講師の語りかけるような話に聞き入っていました。また、紙芝居のほかに『しろばんば』の一部を朗読したり、手遊びやその他のお話をしたりして、小さな子供たちも楽しむことができるよう館内にある生家や土蔵の模型、展示物を見るなど、楽しいひとときを過ごしました。

また、近くの小学校の児童をはじめ、留守家庭児童会の子供たちにも見ってもらうため記念館を離れて実施し、旭川が生んだ作家・井上靖について理解を深めてもらいました。



また、近くの小学校の児童をはじめ、留守家庭児童会の子供たちにも見ってもらうため記念館を離れて実施し、旭川が生んだ作家・井上靖について理解を深めてもらいました。

◆ロビーコンサート

「弦楽四重奏と詩の朗読」

とき 平成十六年八月二十一日(土)

ところ 井上靖記念館ラウンジ

演奏者 旭川フィルハーモニー管弦楽団

辻 直昭氏(チェロ)

坂本満智子氏(第一バイオリン)

中川 正子氏(第二バイオリン)

澤渡 敬子氏(ピオラ)

曲目 アイネクライネナハトムジーク

他

朗読 上森 仲子氏

詩 「流星」「月の出」「夏」



昨年末では、日本古来の楽器である箏や尺八・三弦に加え、ギターやピアノによる演奏会が行われまし

今回は、弦楽四重奏と詩の朗読を中心に企画しました。弦楽器独特のやわらかな音色は大変心地よく、別世界へ引き込まれるような雰囲気を感じていました。

また、靖の「流星」「月の出」「夏」の三篇の詩が、語りかけるような口調で朗読され、参加者は詩人としての井上靖の

素晴らしさに感動を深くしていました。後半、再び弦楽器による演奏が行われました。外はあいにくの雨模様でしたが、雨の日のコンサートは、ほのぼのとした雰囲気の中で幕を閉じました。

◆井上靖の映像の世界

とき 平成十六年九月 十一日(土)

九月 十八日(土)

九月二十五日(土)

ところ 井上靖記念館ラウンジ

取扱作品 「あすなる物語」 「戦国無頼」

「黒い潮」

井上靖の作品は、数多く映画化されています。特に、日本映画の最盛期である昭和二十年代後半から三十年代に上映さ



れた作品の中から、叙情性・浪漫性・娯楽性・社会性が高く、話題となった三作品を映像を鑑賞しながら、井上

文学の魅力に浸りました。

「あすなる物語」の原作は、自叙伝的性格の強いもので、主人公・鮎太の小学校や中学校のころの生活を描いています。

映画では、原作にない高校時代のエピソードも付け加えています。「戦国無頼」の時代背景は、天正時代で琵琶湖を中心として展開され、それぞれ個性の違った三

人の男性の生き方を映像を通して考え、文章と映像の表現の違いを考えるよい機会となりました。

「黒い潮」は、戦後の社会不安の中で起きた事件を題材に、新聞記者であった井上靖の目を通して、当時の国鉄総裁の謎の死を追求した衝撃的な作品の映画化であり、当時の世相を知ることができました。

映像は、出演者の個性や動きによってさまざまな表現をしています。しかし、文学作品には、言葉の持つ表現の豊かさや文章の美しさがあります。活字と映像の比較を通して井上靖の文学のよさ、違いを理解することができました。

◆文学講座

『井上靖と旭川』を読む

宮沢賢治の童話を読む

とき 平成十六年十月 十六日(土)

十一月十三日(土)

ところ 井上靖記念館ラウンジ

講師 片山 晴夫氏

(北海道教育大学旭川校教授)

【講座内容】

昨年度刊行された書籍『井上靖と旭川』について、講師はその編集に携わっており、編集の経過や目的について講話がありました。

- ・本を通じて子供たちをはじめ、多くの市民に旭川が生んだ作家・井上靖と記念館について理解を深めてもらいたい。
- ・総合学習の際、大いに活用して欲しい。
- ・地域文化について一靖が生れたころの

旭川の地域文化を知ること

によつて、旭川

の歴史を知ること

ができる

地域文化を学び、

生れた場所について知識を広めることは、現在の自分を確かめることであり、同時に郷土に対する誇りを持つことが大事である。という講話でした。

宮沢賢治についての講話は、まず、講師と賢治との関わりから始まりました。

そして、『銀河鉄道の夜』『双子の星』の作品から自然科学と人間、作品に現れた音楽や愛を通して宮沢賢治の人物像にせまり、作品に内在する生と死を追求した講話でした。参加者の一人が、宮沢賢治の最後の手帳に記された『雨二毛負ケズ』の詩の複製を持参されました。参加者は熱心に見ながら、賢治の自筆の詩に感動を深くしていました。

◆読書会

とき 平成十七年一月二十九日(土)

二月 五日(土)

ところ 井上靖記念館ラウンジ

作品 『初恋物語』『わが一期一会』『名作の食卓』『石庭』

講師 秋岡 康晴氏
(旭川藤高等学校教諭)

【内容】

今回の読書会は、大学生時代の初期の作品と井上靖へのインタビューテープなどを中心に行われました。

『初恋物語』は、京都帝国大学在学中に応募した作品であり、余り読んだことのない作品なのでどこなく新鮮さを感じられました。『石庭』も同様に、若いエネルギーが伝わってくる作品でした。その後、井上靖の長男・井上修一氏の講演「父を語る」のテープを聞き、父親としての靖を知ることができました。二回目は、随筆や自伝風小説から井上靖が育ってきた様子や、大人になってからの靖について話し合われました。『わが一期一会』や『投網』の作品から「天上の星の輝き」「あじさい」などの朗読があり、作品を読むというより、井上靖自身を知る機会が持てた読書会でした。また、井上靖へのインタビューテープ「自作『投網』を語る」を聞いて、作品に対する思いを知ることができました。



一年間のあゆみ

▽四月一日〜六月三十日

*企画展

・「井上靖／自筆原稿展」

▽四月三十日

*第一回井上靖記念館運営協議会

・会場 旭川市彫刻美術館

▽六月六日

*喫茶コーナー開始

▽六月十二日

*文学講演会

・演題 井上靖の『おろしや国酔夢 譚』を読み！

・講師 工藤 正廣氏

▽七月一日〜九月三十日

*企画展

・「井上靖／旭川への思いをつづって」

▽七月十日

*文学散歩

・見学先 旭川市内の文学碑

・講師 東 延江氏

▽八月二十一日

*ロビーコンサート

・弦楽四重奏と詩の朗読

・辻 直昭氏 他

・上森 伸子氏

▽十月二日〜十二月二十六日

*企画展

・「おろしや国酔夢譚特集展」

▽十月十六日・十一月十三日

*文学講座

・「井上靖と旭川」を読む

▽十月三十一日

*喫茶コーナー終了

▽十一月三十日

*相談役会議

・会場 東京

▽一月五日〜三月二十七日

*企画展

・「井上靖の新聞連載小説特集展Ⅱ」

▽一月二十八日

*第二回井上靖記念館運営協議会

・会場 旭川市彫刻美術館

▽一月二十九日・二月五日

*井上靖読書会

・作品『初恋物語』『石庭』

・『わが一期一会』など

・講師 秋岡 康晴氏

* * * * *

平成十七年度の「ご案内」

《企画展》

●詩からの出発

* 四月一日〜六月二十六日

●雑誌に見る井上文学

* 七月二日〜十月二日

●井上靖／西域への夢

* 十月九日〜一月九日

●随筆に見る人間・井上靖

* 一月十四日〜四月九日

《自主事業》

●文学講演会 六月 十八日(土)

●文学散歩 七月 九日(土)

●夏休みおはなし会七月二十七日(水)

●ロビーコンサート八月二十日(土)

●朗読会 九月 十七日(土)

●井上靖の映像の世界

十月 十五日(土)

●文学講座

九月 十日(土)

●読書会

九月二十四日(土)

●職員動静

十月二十九日(土)

十一月十二日(土)

一月二十八日(土)

十月 十五日(土)

九月 十日(土)

九月二十四日(土)

十月二十九日(土)

十一月十二日(土)

一月二十八日(土)

十月 十五日(土)

九月 十日(土)

九月二十四日(土)

十月二十九日(土)

十一月十二日(土)

一月二十八日(土)

十月 十五日(土)

九月 十日(土)

九月二十四日(土)

十月二十九日(土)

十一月十二日(土)

一月二十八日(土)

十月 十五日(土)

九月 十日(土)

九月二十四日(土)

十月二十九日(土)

十一月十二日(土)

ご利用マップ



《開館のご案内》

- 開館時間／午前9時～午後5時
- 休館日／毎週月曜日
(月曜日が祝日:翌日休館)
年末年始
- 観覧料／無料
- ☎070-0875 旭川市春光5条7丁目
- TEL 0166-51-1188 FAX 0166-52-1740

《交通のご案内》

- バス:あさでんバス
- 旭川駅前発:⑤番(所要時間25分)
- 1条7丁目発:22番・80番(所要時間25分)
- 下車:4区1の1停留所(徒歩:3分)
- タクシー:旭川駅前～井上靖記念館(1,700円程度)

* * 編集後記 * *

▽平成十六年度の井上靖記念館のあゆみをまとめてみました。多くの人々の温かいご理解とご支援をいただきながら事業を推進できたことに感謝しております。

▽新年度、スタッフの異動がありました。スタッフ一同、微力ではありますが、井上靖記念館の事業の充実に努めたいと思っています。今後とも、記念館へのご指導・ご協力をよろしく願います。

◇職員動静◇

- (転出) 嘱託 高島 義和
- 嘱託 源 圭子
- 臨職 岡村 美穂
- (着任) 嘱託 土井 昌信
- 嘱託 齋藤 知子
- * * * * *
- 臨職 菅沼由美子
- * * * * *